

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 7 授業例①

T.K. 先生

指導計画表 (全8時間)

| 時間 | 学習内容・主な活動 |
|----|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ■ とびら ・ プレ活動 ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ GET Part 1 ・ 新出語句の発音練習 ・ コミュニケーション活動 ・ グループで本文理解活動 ・ 本文理解を通した文法事項の習得 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ GET Part 1 ・ 本文の復習 (音読) ・ Drill や Practice を使ったの活動 ・ Part 1 の山の標高データを用いて、表とグラフどちらを用いて表したほうが良いかグループで考える。 ■ GET Part 2 ・ ” The Beatles ” , ” Garth Brooks ” , ” Elvis Presley ” , ” Led Zeppelin ” , ” Eagles ” の代表的な曲を You Tube を使って聴き、感想を述べ合う。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ GET Part 2 ・ 新出語句の発音練習 ・ コミュニケーション活動 ・ グループでの本文理解活動 ・ 本文理解を通した文法事項の習得 ・ Part 2 の売上データを用いて、表とグラフどちらを用いて表したほうが良いかグループで考える。 |

| 時間 | 学習内容・主な活動 |
|----|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ GET Part 2 ・ 本文の復習 (音読) ・ Drill や Practice を使ったの活動 ■ GET Part 3 ・ 新出語句の発音練習 ・ コミュニケーション活動 ・ グループで本文理解活動 ・ 本文理解を通した文法事項の習得 ・ Drill や Practice を使ったの活動 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ USE Read ・ USE Read を用いて教師が作成した読解問題を 15 分間で解く。 ・ グループで本文理解活動を行い、再度問題の解答を探る。 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ USE Read ・ 本文理解を通した文法事項の習得 ■ グラフや表を作成するためのデータ収集 ・ 好きな教科、好きなスポーツ、好きな歌手について学級でアンケートを取り、グラフや表を作成する。 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ グラフや表のデータをもとに、そのデータから分かることを比較級・最上級を用いて、表現活動を行う。 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 25 題テスト (単語テスト) ■ プレゼンテーション活動 ■ まとめ |

実践例

1. 指導の実際

本 LESSON を通して、単に本文理解をさせたり、比較級・最上級の文法事項を習得させたりするのではなく、様々なデータをどのように表すとより分かりやすく他の人に伝えることができるのか（プレゼンテーションの仕方）を理解させ、実際に生徒らに英語でアンケートを行い、そのデータからグラフを作成させ、それから分かったことを英文でまとめ発表するという活用力を身につけることができるように構成した。

以下に本 LESSON の指導において特に力を入れた事柄について時間ごとに示していくことにする。

【第1時】

LESSON 全体の導入として、まず、「とびら」にある2つの世界地図を見比べると同時に、日本で一般的に販売されている世界地図やインターネット上から様々な地図を検索し、オーストラリアを中心に描かれている地図などを生徒に提示し、「どのような違いがあるのか」「どのような用途に使われるのか」についてグループで討議させた。また、グラフや表についても多くの種類を提示し、この LESSON において物事を比較するときに必要な英語的文法表現について学ぶことはもちろんのこと、相手に分かりやすい最適な提示方法について学び、活用できるようになることを意識させ、定着させることを意識して授業を行った。

【第2時】

異文化理解という視点からアメリカ国民がどのような音楽を好むのかについて、教科書に掲載されている生徒に馴染みの薄い”The Beatles”，”Garth Brooks”，”Elvis Presley”，”Led Zeppelin”，”Eagles”の代表的な曲を You Tube を使って聴かせ、日本の J-POP との曲調の違いに気付かせるとともに洋楽への興味関心を抱かせるようにした。事前に生徒にそれぞれのアーティストを知っているか尋ねたが、知っている生徒は少なく、知っている生徒も保護者がファンで、聴いたことがある程度であった。

生徒らは、単に教師が授業を行っても毎時間目を輝かせて授業を受けるとは限らないので、興味関心を抱かせるという観点からはとても有効な手段であると考えた。また、生徒に馴染みのない歌手らの売上げランキングが教科書に出てきても、軽く「あつ、そうなんだ〜。」と思うだけで、記憶に残る授業とは言えない。私の受け持つ生徒には英語を苦手とする生徒が多いが、音楽に興味があるという生徒は意外と多い。英語を苦手とする生徒の関心や意欲を高めつつ、記憶に残る授業を1つでも作りたいと考えながら授業を構成することは大事であると考えた。

You Tube の動画を生徒に見せるということは、インターネット環境や生徒に見せるためにプロジェクターとスクリーン、もしくは大型テレビが必要になってくるが、本校では、有線 LAN の環境及び各教室に大型テレビが備え付けられている。ただ、パソコンを授業時に教室に運んで行くことが面倒でもあり、LAN の調子によっては見られないという問題が発生する可能性もあるため、私は、iPad mini に生徒に見せたい動画を You Tube からダウンロードし、オフラインで見せられるようにしている。授業における iPad を含めた効率の良い ICT 機器の活用もより深く研究を進める必要があると考えた。

また、GET Part1 の山の標高データは、表を用いているが、これをグラフにした場合、発表の聞き手側は、理解しやすいかどうかを実際にグループでグラフを作成し検証させた。

【第3時】

Part 1 でも同じように検証させたが、Part 2 でも売上データを用いて、表にした場合、発表の聞き手側は、理解しやすいかどうかを実際にグループでグラフを作成し検証させた。

この第2時と第3時の活動の比較により、用途に応じて表とグラフの使い分けをすべきことを体得させるように手立てを講じた。比較させ考える時間を設けることで、生徒も楽しみながら学べたという感想が多かった。このような活動は、「英語を学び

ながらその英語を通して物事の表現の仕方を学ぶ。」という思考表現力や活用力を生徒に付けさせる有効な手立ての1つであると考える。

【第6時～第8時】

グラフや表を作成するために「好きな教科」「好きなスポーツ」「好きな歌手」について学級でアンケートを取り、グラフや表を作成させる。そのグラフや表のデータをもとに、それから分かることを比較級や最上級を用いて、表現活動を行う。その後、プレゼンテーション活動ができるように発表原稿を作成し、その原稿を見ないで発表を行う練習をグループ内で行わせた。これらの活動により、学習した英語をより実践的に使えるように構成した。

2. 本校における指導の重点

指導計画上の「学習内容・主な活動」に記してある各時間で取り組んでいる本校の指導の重点について以下に説明する。

ア 「25 題テスト」(資料 1) について

帯活動の一環として、同じ 25 個の単語を 3 回繰り返しテストするというもので、自宅で練習をすればするほど目に見えて結果が向上するというものである。そのため自分の学習成果がすぐにフィードバックされる。また、お互いライバル意識を持ち友達と競い合うこともでき、ゲーム感覚で学習に取り組めるものである。この活動は、本校の研究主題でもある「意欲的に学習にとり組む生徒の育成」を目的としている。

また、本校では、基礎的・基本的事項の定着および学力向上のために 1, 2 年生を対象に英語と数学において、「月末テスト」(資料 2, 3)を実施している。この月末テストは、25 題テストと完全にリンクしており、日頃、一生懸命覚えた英単語や基本的英作文から単語 50 個、英作文(並べ替え) 25 文を出題し、20 分間の解答時間で解くものであり、学年朝会で表彰も行っている。定期テストではあまり点数が獲れない生徒も、1 度見たことのあるものから出題されるため熱心に取り組む生徒も多い。

イ 「英語で聞いて、英単語を答える」について (資料 1)

この活動は、「25 題テスト」に付随するものである。昨年度末から中学生では馴染みのない「英英辞書」の活用方法は何かないだろうかと考えていたところ、京都教育大学京都小中学校の研究授業に参加する機会があり、丁度その授業の中でも「生徒に思考させる」という観点から単語テストに活用していた。そのことをヒントに本校では、25 題テストに出題している英単語の意味を英語でも提示し、感覚的に意味を掴ませるように 1 年次の 2 月下旬から取り組み始めたところである。この活動を始める前は、本校の生徒にはレベルが高すぎるのではないかと懸念する声もあったが、始めてみるとそのようなマイナスなことは全くなく、現在ではゲームができるまでになった。活動内容としては、「教師が英単語の意味を英語で言い、それを生徒が聞いて、英単語を答えるというもの」である。ただ、意味の中には未習語も多くあるため、生徒の負担過重にならないように新しい 25 題テストを配布する際に、それぞれの意味の中で生徒が分かる単語をキーワードとしてしっかりと提示し、感覚的に覚えるように促す必要がある。この活動を通し、教師、ALT の英語を聞いて理解し、自ら考え、単語を推測する力が付くのと同時に、月末テストにも表記してある英語の意味から英単語を答えさせる問題を出題していることから英語を見て理解する力が付くと考えられる。授業の中では、苦手な生徒に対しては、周囲の生徒が助ける姿も見られている。使用している英英辞書については、京都教育大学京都小中学校の授業研究で「LONGMAN Active Study Dictionary」を使っているということであったので、持ち運びのことも考え、iPad のアプリ版を本校では使用している。

ウ 「教科書の音読」について

特別なことは行っていないが、先ず教師が範読として読むスピードを「遅い→ナチュラルスピード→やや速い→とても速い→ナチュラルスピード」と変化させて読み、そのスピードで後に続けて読ませるようにしている。その際、「遅いとき」

と「ナチュラルスピード」の際に単語の発音は言うまでもなく、「単語と単語の音のつながり」や「抑揚・強勢」についても説明するようにしている。

また、一斉で音読練習をさせる際に声が小さい場合などにペア活動として、「1冊の教科書を使い、じゃんけんをさせ、負けたほうがその教科書をあごに当て、勝ったほうが英文を相手に伝わるように読み上げ、その読まれた英文を負けたほうが英文を見ずに復唱する。」という活動をしている。この活動をすることで聞き手は相手の英語をしっかりと聞かないと復唱できないため、読み手は自然と大きな声になる。そしてこの活動後に一斉に音読をさせると不思議と大きな声で音読するようになり、効果が期待できる。

エ 「グループでの本文理解活動①

「日本語の穴埋め」について

本文理解をさせる際に、英語が苦手な生徒も話し合い活動をするなかで、お互いの考えを述べ合いながら教科書本文の日本語訳の穴埋めを行わせるものである。この活動は、「思考・表現力を高める学習指導の改善」と「生徒にコミュニケーション能力を高めさせること」を目的としている。

昨年度は、自宅での予習の際にノートに新出語句の意味調べと、教科書本文を写し日本語訳までさせるようにしていたが、英語が得意な生徒は、日本語訳までできるが、苦手な生徒は全く手を付けず授業を受けている状況があった。そのため、昨年度末に試行的に現3年生の一部には実施していたが、英語が苦手な生徒も苦痛なく興味をもって英語の授業に取り組む姿があったので、今年度から本格的に始めたものである。

この活動では、お互いの考えを述べ合い、英単語の直接的意味を日本語に変えた場合、どのような日本語が適切か考える必要があるため、女子が得意とする分野であると考えられる。もっと男子も自分の意見を積極的に述べられるように高めていく必要があると思われる。

オ 「グループでの本文理解活動②

「長文の問題解き」について

生徒にとって最も苦手とするものが、長文問題を解くことである。本学級の生徒の半数がアンケートの結果から苦手としていることが分かる。鹿児島県公立高等学校入学選抜試験の英語の問題においても平成25年度から問題傾向が変わり、これまでの450語前後の長文読解問題に加え、120語程度の対話文の文脈完成問題、120語程度のスピーチや150語程度の体験談を読んで文脈をとらえる問題が出題され、これまで以上に短時間で長文を読んで内容理解ができなければ問題に太刀打ちできない状況になってきている。このことから授業の中でこれまで以上に長文読解力を付けなければならないという観点から、どのような内容が書かれているのかただ理解させるのではなく、単元ごとに教科書の長文から問題を作成し、その問題を解かせ、より実践的な力を少なからず授業を通して生徒に付けていく必要が出てきている。しかし、長文問題が苦手な生徒に単に問題を解かせ、解答合わせをしても実践的な力が付くわけではないと考えるため、以下のような7つの手法を取り、授業を進めている。生徒の苦手な理由も分かるが、取り組みを継続させ、繰り返し行う中で、生徒の力を高めていかなければならないと思う。また、そうすることが塾に通っていない生徒や通うことのできない生徒への進路保障にも結果的につながると考える。

《手法》

- ① 15分間で解かせる。
- ② 指示代名詞が具体的に何を示しているか答えさせる問題を作る。
- ③ 英問英答の問題を作成する。
- ④ 自分自身の考えを答えさせる問題を入れる。
- ⑤ 15分が過ぎた後は、グループ活動を行い、それぞれの解答を消させないで、グループ内で解答を見つけさせる。
- ⑥ グループ内で日本語の穴埋めプリントを行い、ある程度の内容を理解させたうえで再度、⑤で討議した解答について確認させる。
- ⑦ 教師と一緒に音読練習をするとともに、内容理解をし、解答を確認する。

3. 本校における授業設計の視点

オールイングリッシュ授業の取り組み

新学習指導要領が2020年から実施され、2018年から先行実施される予定である。また、中学校における英語の授業は、「英語で行うことを基本とする」と文部科学省が『グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方』のなかで示している。そのため教師側がオールイングリッシュの授業に慣れておくことと、現在3年生が卒業し、高校へ進学した際には、すでに英語で授業が行われていることを考え、本校では英語で授業を行うことを基本として本年度から取り組んでいくことを教科内で共通理解し、授業で英語を使うことを積極的に推進している。生徒を取り巻く英語教育の現状について生徒にも伝え、意欲をもたせるようにしている。生徒らは、オールイングリッシュの授業に最初は戸惑いながらも、教師が何を言っているのかと集中して聞き取ろうとする姿に変容している。英語で授業をすることは大変なことではあるが、時代の流れであるので、我々教師が早く考え方を変えて実践する必要があると考える。

ア 25 題テストの例 (資料 1, p.1)

| 問題 | 英語 | 問題 | 英語 | 問題 | 英語 |
|---------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 1. 2年級 | 2年級 | 11. 2年級 | 2年級 | 21. 2年級 | 2年級 |
| 2. 2年級 | 2年級 | 12. 2年級 | 2年級 | 22. 2年級 | 2年級 |
| 3. 2年級 | 2年級 | 13. 2年級 | 2年級 | 23. 2年級 | 2年級 |
| 4. 2年級 | 2年級 | 14. 2年級 | 2年級 | 24. 2年級 | 2年級 |
| 5. 2年級 | 2年級 | 15. 2年級 | 2年級 | 25. 2年級 | 2年級 |
| 6. 2年級 | 2年級 | 16. 2年級 | 2年級 | | |
| 7. 2年級 | 2年級 | 17. 2年級 | 2年級 | | |
| 8. 2年級 | 2年級 | 18. 2年級 | 2年級 | | |
| 9. 2年級 | 2年級 | 19. 2年級 | 2年級 | | |
| 10. 2年級 | 2年級 | 20. 2年級 | 2年級 | | |

イ 「英語で聞いて、英単語を答える」の例

(資料 1, p.2)

| | | |
|----------|--|----------|
| 1. 意味 | meaning from English-English dictionary | 意味 (現在形) |
| 2. 経験した事 | to experience a particular physical feeling or emotion | 経験 |
| 3. 参加 | to take part in a war or battle | 参加 |
| 4. 探す | to get something that you have been looking for | 探す |
| 5. 飛ぶ | to travel somewhere by plane | 飛ぶ |
| 6. 忘れ去る | to not remember something | 忘れ去る |
| 7. 知らせる | to receive, find, or buy something | 知らせる |
| 8. 知らせる | to let someone have something as a present, or to provide something for someone | 知らせる |
| 9. 知らせる | to leave something and move or travel somewhere else | 知らせる |
| 10. 知らせる | to get beer, or alcohol | 知らせる |
| 11. 知らせる | to own something, or be able to use something | 知らせる |
| 12. 知らせる | nothing | 知らせる |
| 13. 知らせる | one of the pieces, areas etc that form the whole of something | 知らせる |
| 14. 知らせる | someone who plays a musical instrument, especially as a job | 知らせる |
| 15. 知らせる | used to ask or talk about the reason for something | 知らせる |
| 16. 知らせる | used when you are about the reason for something | 知らせる |
| 17. 知らせる | to have a suspicion about someone or something | 知らせる |
| 18. 知らせる | used at the beginning of a sentence to emphasize a description | 知らせる |
| 19. 知らせる | nothing | 知らせる |
| 20. 知らせる | the time after now | 知らせる |
| 21. 知らせる | an organization for people who share an interest or who enjoy similar activities | 知らせる |
| 22. 知らせる | an event where people need to discuss something | 知らせる |
| 23. 知らせる | a particular day of the month or of the year shown by a number | 知らせる |
| 24. 知らせる | used in times from 11 o'clock at night until 11 o'clock in the day | 知らせる |
| 25. 知らせる | the area just inside the door of a building, that leads to other rooms | 知らせる |